

2021・4・9

【角川俳句賞2021

全62句】

選19句

春昼の時報の響く港町

特急の停らずに行く春の駅

永き日の大煙突のがらんどろ

いざ行かん春一番のバスに乗り

がさごそと浅蜷のたうつ鍋の中

蝶々にパンもケーキも無けれども

濃き雲に雲間ありける桜かな

島国に山と川ある桜かな

悩ましき不規則動詞桜咲く

歳月を押し留めたる大桜

十本の月にはまみゆる桜かな

村々の小学校の桜かな

花咲けば校医来りて注射打つ

夕立やその絶頂の観覧車

蟻の道お天道様が見てをられ

爽やかに宇宙を廻る地球かな

覗き見る点検孔の夜長かな

デパートの地下も豊年満作で

朝顔の成れの果てとは言ひ得たり

各郡に手紙奉内因
羽の万のイ-ア
×ア

2021・4・9 【角川俳句賞2021 全77句】 選22句

2
2

④ 春昼の時報の響く港町 古妻も一つ年取る桜かな

③ 特急の停らぬ駅の日永かな 歳月を押し留めんと大桜

① 啓蟄の首都に路線図道路網 東海の富士晴れやかに桜咲く

② いざ行かん春一番のバスに乗り 夕立やその絶頂の観覧車

⑥ がさごそと浅蜩のたうつ鍋の中 蟻の道お天道様が見てをられ

⑤ 蝶舞ふやパンもケーキも無けれども 爽やかに宇宙を廻る地球かな

⑤ 濃き雲に雲間ありける桜かな 覗き見る点検孔の夜長かな

S-1 島国に山と川ある桜かな 満月や山の滋養の三角州

S-9 人知れず月にまみゆる桜かな デパートの地下も豊年満作で

S-8 悩ましき不規則動詞桜咲く 朝顔の成れの果てとは言ひ得たり

S-4 朝晩の濃度異なる桜かな

S-3 村々の小学校の桜咲く

首郡
35
35
天晴れや東海道に桜咲く

フイト
4.10

に
ある

頂上
区
打つ
鏡
水車

夕立に頂上打たす
水車の如く

よ
く
言
ひ
得
た
り

3

2021・4・10 【角川俳句賞2021 全110句】 選22句

12行3段組14ボ 2021年4月10日 12:25へ1 桐9

啓蟄の成田フライト案内所 規則動詞不規則動詞桜咲く

いざ行かん春一番のバスは乗り ^{バス乗りの平日午後の月日登} 古妻も一つ年取る桜かな

特急の停らぬ駅の日永かな ^{早くしんで} 人知れず月にまみゆる桜かな

春昼の時報の響く港町 夕立に水車の如し観覧車

蝶まふやパンもケーキも無きままに ^{↓つかみ私し} 蟻の道お天道様が見てをられ

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中 [↓] 朝顔の成れの果てとはよくぞ言ふ

歳月を押し止めんと大桜 爽やかに宇宙を廻る地球かな

島国の山河喜ぶ桜かな 覗き見る点検孔の夜長かな

天晴や東海道に桜咲く ^{花咲き} デパートの地下も豊年満作で

村々に小学校や朝桜 ^{女学生のおく} 満月や山の滋養の三角州

朝晩の濃度異なる桜かな [↓] 山々をよめて

黒雲の割れて日の差す桜かな

2021・4・10

【角川俳句賞2021 全128句】 選24句

4

啓蟄や平日午後羽田発 村々に小学校や朝桜

乗り込んで春一番のバスで行く 規則動詞不規則動詞桜咲く

特急の停らぬ駅の日永かな 黒雲の割れて日の差す桜かな

春昼の時報の響く港町 女房も一つ年取る桜かな

つかみ難しよ落るナイフも燕も 咲き満ちて月にまみゆる桜かな

蝶まふやパンもケーキも無き森に 夕立に水車の如し観覧車

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中 蟻の道お天道様が見てをられ

歳月を押し止めんと大桜 朝顔の成れの果てとはよくぞ言ふ

島国の山河喜ぶ桜かな 爽やかに宇宙を廻る地球かな

天晴や東海道に花吹雪 覗き見る点検孔の夜長かな

花満ちて蒸気機関車蒸気吐く デパートの地下も豊年満作で

幼子は国の宝ぞ桜咲く 満月や山々を出て三角州

2021・4・10 【角川俳句賞2021 全139句】 選31句

5

~~ふぶきては光速越ゆる桜かな~~ ^{えたるやゆめをいかに} 蝶まふやパンもケーキも無き森に
~~公園の桜の下に雨宿り~~ ^{消えな} ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中

洛中に金雲生るる桜かな
歳月を押し止めんと大桜

熱飯に卵かけたる桜かな
~~島国~~ ^{日かおして} 山河喜ぶ桜かな

さやうなら昨日の我に花吹雪
~~日本の~~ 天晴や東海道に花吹雪

咲き満ちて降臨を待つ桜かな
花満ちて蒸気機関車蒸気吐く

昨日着たものを洗うて朝桜
幼子は国の宝 ~~ぞ~~ 桜咲く

啓蟄や平日午後の羽田発
村々に ~~の~~ 小学校 ~~の~~ 朝桜

~~花を~~ ^{はと} 乗り込んで春一番のバスで行く ~~の~~ 桜咲く

特急の停らぬ駅の日永かな
黒雲の割れて日の差す桜かな

春昼の時報の響く港町
女房も一つ年取る桜かな

つかみ難しよ落るナイフも燕も
咲き満ちて月にまみゆる桜かな

12行3段組14ボ 2021年4月10日 20:32へ1 桐9

夕立に水車の如し観覧車
蟻の道お天道様が見てをられ

朝顔の成れの果てとはよくぞ言ふ

爽やかに宇宙を廻る地球かな

覗き見る点検孔の夜長かな

デパートの地下も豊年満作で

満月や山々を出て三角州

~~幼子は桜の国の宝なり~~
^{月の夜の} ~~を前にして~~ ^解 ~~わ~~ ^た
4.11

2021・4・11 【角川俳句賞2021 全170句】 選31句

12行3段組14ボ 2021年4月11日 10:59へ1桐9

啓蟄や平日午後羽田発 花満ちて蒸気機関車蒸気吐く 夕立に水車の如し観覧車

旗立てて春一番のはとバスよ 幼子は桜の国の宝なり 蟻の道お天道様が見てをられ

特急の停らぬ駅の日永かな 村々の小学校の朝桜 朝顔の成れの果てとはよくぞ言ふ

春昼の時報の響く港町 規則動詞不規則動詞桜咲く 爽やかに宇宙を廻る地球かな

つかみ難しよ落るナイフも燕も 黒雲の割れて日の差す桜かな 覗き見る点検孔の夜長かな

蝶の舞パンやケーキの無き森に 洛中に金雲生るる桜かな デパートの地下も豊年満作で

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中 咲き満ちて降臨を待つ桜かな 月の夜の山を解かして三角州

熱飯に卵かけたる桜かな 女房も一つ年取る桜かな

昨日着たものを洗うて朝桜 花吹雪いくたびも振り返るなり

歳月を押し止めんと大桜 光速を越えたる花の消えて無し

日本の山河喜ぶ桜かな 公園の桜の下に雨宿り

天晴や東海道に花吹雪 咲き満ちて月にまみゆる桜かな

おんを派

つまは付をいぢぎ
おんを

もう一ばんよりかへる

うきゆる

のわく

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

2021・4・11 【角川俳句賞2021 全218句】 選36句

7

桜の国

12行3段組14ポ 2021年4月11日 18:35 ↑ 桐9

啓蟄や平日午後羽田発

旗立てて春一番のはとバスは

特急の停らぬ駅の日永かな

春昼の時報の響く港町

つかみ難しよ落るナイフも燕も

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中

熱飯に卵かけたる朝桜

昨日着たものを洗うて朝桜

歳月を押し止めんと大桜

日本の山河喜ぶ桜かな

天晴や東海道に花吹雪

花満ちて蒸気機関車蒸気吐く

幼子は桜の国の宝なり

村々の小学校の朝桜

規則動詞不規則動詞桜咲く

黒雲の割れて日の差す桜かな

洛中に金雲の湧く花見かな

咲き満ちて降臨を待つ桜かな

咲き満ちて落花の封を切らんとす

青空の剥落つづく花吹雪

太陽の彼方に永遠の花吹雪

女房も一つ年取る桜かな

もういちど人ふりかへる桜かな

ざあざあと元気な下水桜咲く

光速を越えたる花の消えて無し

公園の桜の下に雨宿り

あたたかな涙つめたき花の雨

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

夕立に水車の如し観覧車

蟻の道お天道様が見てをられ

朝顔の成れの果てとはよくぞ言ふ

爽やかに宇宙を廻る地球かな

覗き見る点検孔の夜長かな

デパートの地下も豊年満作で

月の夜の山を解かして三角州

今は話をし

西へ東へ

吹かれや

いみじ

かよふ

元々の月

廻りゆく地球をくぐりし花の消えて無し

2021・4・12

【角川俳句賞2021 桜の国全238句】

選35句

12行3段組14ポ 2021年4月12日 09:39 へ1 桐9

花満ちて蒸気機関車蒸気吐く

歳月を押し止めんと大桜

女房も一つ年取る桜かな

特急の停らぬ駅の日永かな

日本の山河喜ぶ桜かな

わかれゆく人ふりかへる桜かな

啓蟄や平日午後羽田発

黒雲の割れて日の差す桜かな

公園の桜の下に雨宿り

吹かば吹け春一番のバスの旅

洛中に金雲の湧く花見かな

あたたかき涙つめたき花の雨

春昼の時報の響く港町

咲き満ちて降臨を待つ桜かな

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

ざあざあと元気な下水桜咲く

蓋開けて天井匂ふ桜の夜

つかみ難しよ落るナイフも燕も

一二片落花の封を切らんとす

夕立に水車の如し観覧車

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中

天晴や東海道に花吹雪

蟻の道お天道様が見てをられ

熱飯に卵かけたる朝桜

青空の剥落つづく花吹雪

朝顔の成れの果てとはよくぞ言ふ

幼子は桜の国の宝なり

となりの木となりの木へと花吹雪

覗き見る点検孔の夜長かな

村々の小学校の朝桜

廻りゆく地球恐ろし花吹雪

デパートの地下も豊年満作で

きのふ着しものを洗うて朝桜

太陽の彼方へ永遠の花吹雪

花のあつて山に水が流る

8

成田

↓水カ

み

天晴

格

い

2021・4・12 【角川俳句賞2021 桜の国 全250句】 選68句

17行3段組14ポ 2021年4月12日 14:05 ↑桐9

啓蟄の成田フライト案内所

花満ちて涙こらへてゐるやうな

朝顔の成れの果てとはよくぞ言ふ

吹かば吹け春一番のバスの旅

ざあざあと元気な下水桜咲く

覗き見る点検孔の夜長かな

特急の停らぬ駅の日永かな

一二片落花の封を切らんとす

デパートの地下も豊年満作で

春昼の時報の響く港町

天晴や東海道に花吹雪

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

天空の剥落つづく桜かな

つかみ難しよ落るナイフも燕も

となりの木となりの木へと花吹雪

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中

廻りゆく地球恐ろし花吹雪

熱飯に卵かけたり朝桜

太陽の彼方へ永遠の花吹雪

幼子は桜の国の宝なり

この世からあの世へ吹雪く桜かな

村々の小学校の朝桜

女房も一つ年取る桜かな

きのふ着しものを洗うて朝桜

わかれゆく人ふりかへる桜かな

歳月を押し止めんと大桜

公園の桜の下に雨宿り

日本の山河喜ぶ桜かな

あたたかき涙つめたき花の雨

花満ちて山に水力発電所

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

黒雲の割れて日の差す桜かな

蓋あけて天井匂ふ桜の夜

洛中に金雲の湧く花見の囃

夕立に水車の如し観覧車

咲き満ちて降臨を待つ桜かな

蟻の道お天道様が見てをられ

まなほを知らむる山の
花

2021・4・12

【角川俳句賞2021 桜の国 全261句】

選38句

17行3段組14ボ 2021年4月12日 21:16 へ1 桐9

10

啓蟄の成田フライト案内所

咲き満ちて降臨を待つ桜かな

朝顔の成れの果てとはよくぞ言ふ

吹かば吹け春一番のバスの旅

ボンネット開けて桜を見せてやる

爽やかに宇宙を廻る地球かな

特急の停らぬ駅の日永かな

ざあざあと元気な下水桜咲く

覗き見る点検孔の夜長かな

春昼の時報の響く港町

一二片落花の封を切らんとす

デパートの地下も豊年満作で

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

花満ちて涙こらへてゐるやうな

つかみ難しよ落るナイフも燕も

天空の剥落つづく桜かな

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中

天晴や東海道に花吹雪

熱飯に卵を落す朝桜

となりの木となりの木へと花吹雪

幼子は桜の国の宝なり

太陽の彼方へ永遠の花吹雪

村々の小学校の朝桜

この世からあの世へ吹雪く桜かな

きのふ着しものを洗うて朝桜

女房も一つ年取る桜かな

歳月を押し止めんと大桜

公園の桜の下に雨宿り

日本の山河喜ぶ桜かな

あたたかき涙つめたき花の雨

山奥に海を知らざる桜かな

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

花満ちて山に水力発電所

蓋あけて天井匂ふ桜の夜

黒雲の割れて日の差す桜かな

夕立に水車の如し観覧車

洛中に金雲の湧く花見の囃

蟻の道お天道様が見てをられ

山はわねに深うかみ初桜

初桜

白鍵の内

熱飯に卵

花満ちて涙こらへてゐるやうな

天空の剥落つづく桜かな

初桜

花の西

花力

サ化を

歌りやくや

一日一日のサ化を

咲き初め

娘の子にやまひるるサ化を

2021・4・13

【角川俳句賞2021 桜の国全288句】

選43句

17行3段組14ポ 2021年4月13日 07:22 桐9

咲き初めて一日一日の花衣
妹の子に譲りたる花衣

山奥に海を知らざる桜かな
飛花落花海の深さは知らざりき

あたたかき涙つめたき花の雨
咲き満ちて月にまみゆる桜かな

白鍵の間に黒鍵つばくらめ

山あれば水清らかに初桜

蓋あけて天井匂ふ桜の夜

口中に泥を捏ねたる燕かな

花満ちて山に水力発電所

夕立に水車の如し観覧車

つばくらや雨ふる国の深底

黒雲の割れて日の差す桜かな

蟻の道お天道様が見てをられ

啓蟄の成田フライト案内所

洛中に金雲湧けり花衣

朝顔の成れの果てとはよくぞ言ふ

吹かば吹け春一番のバスの旅

咲き満ちて降臨を待つ桜かな

爽やかに宇宙を廻る地球かな

特急の停らぬ駅の日永かな

ボンネット開けて桜を見せてやる

覗き見る点検孔の夜長かな

春昼の時報の響く港町

ざあざあと元気な下水桜咲く

デパートの地下も豊年満作で

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

一二片落花の封を切らんとす

つかみ難しよ落るナイフも燕も

花満ちて涙こらへてゐるやうな

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中

天晴や東海道に花吹雪

熱飯に卵を落す朝桜

となりの木となりの木へと花吹雪

幼子は桜の国の宝なり

太陽の彼方へ永遠の花吹雪

村々の小学校の朝桜

この世からあの世へ吹雪く桜かな

きのふ着しものを洗うて朝桜

女房も一つ年取る桜かな

歳月を押し止めんと大桜

公園の桜の下に雨宿り

お世も
なごませう

啓蟄の成田フライト案内所

咲き初めて一日一日の花衣

蓋あけて天井匂ふ桜の夜

吹かば吹け春一番のバスの旅

花満ちて山に水力発電所

妹の娘に譲る花衣

特急の停らぬ駅の日永かな

黒雲の割れて日の差す桜かな

夕立に水車の如し観覧車

春昼の時報の響く港町

浴中に金雲湧けり花衣

蟻の道お天道様が見てをられ

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

ボンネット開けて桜を見せてやる

朝顔の成れの果てとはよくぞ言ふ

白鍵の間に黒鍵つばくらめ

ざあざあと元気な下水桜咲く

爽やかに宇宙を廻る地球かな

口中に泥を捏ねたる燕かな

一二片落花の封を切らんとす

覗き見る点検孔の夜長かな

つばくらや雨ふる国の深庇

花満ちて涙こらへてゐるやうな

デパートの地下も豊年満作で

つかみ難しよ落るナイフも燕も

天晴や東海道に花吹雪

その時は初夢でまた逢ひませう

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中

となりの木となりの木へと花吹雪

山あれば水清らかに初桜

太陽の彼方へ永遠の花吹雪

熱飯に卵を落す朝桜

この世からあの世へ吹雪く桜かな

幼子は桜の国の宝なり

女房も一つ年取る桜かな

村々の小学校の朝桜

公園の桜の下に雨宿り

きのふ着しものを洗うて朝桜

あたたかき涙つめたき花の雨

歳月を押し止めんと大桜

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

山奥に海を知らざる桜かな

洛外に雷雲を呼ぶ夜の桜

【角川俳句賞2021 桜の国全295句】 選42句

17行3段組14ボ 2021年4月13日 19:42 へ1 桐9

啓蟄の成田フライト案内所 咲き初めて一日一日の花衣

吹かば吹け春一番のバスの旅 花満ちて山に水力発電所

特急の停らぬ駅の日永かな 花満ちて涙こらへてゐるやうな

春昼の時報の響く港町 黒雲の割れて日の差す桜かな

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に 洛中に金雲湧けり花衣

白鍵の間に黒鍵つばくらめ ボンネット開けて桜を見せてやる

口中に泥を捏ねたる燕かな ざあざあと元気な下水桜咲く

つばくらや雨ふる国の深庇 一二片落花の封を切らんとす

つかみ難しよ落るナイフも燕も 天晴や東海道に花吹雪

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中 となりの木となりの木へと花吹雪

山あれば水清らかに初桜 太陽の彼方へ永遠の花吹雪

幼子は桜の国の宝なり この世からあの世へ吹雪く桜かな

村々の小学校の桜かな 女房も一つ年取る桜かな

熱飯に卵を落す朝桜 公園の桜の下に雨宿り

山奥に海を知らざる桜かな あたたかき涙つめたき花の雨

歳月を押し止めんと大桜 咲き満ちて月にまみゆる桜かな

きのふ着しものを洗うて朝桜 洛外に雷雲を呼ぶ夜の桜

蓋あけて天井匂ふ桜の夜
妹の娘に譲る花衣

夕立に水車の如し観覧車
蟻の道お天道様が見てをられ

爽やかに宇宙を廻る地球かな
覗き見る点検孔の夜長かな

デパートの地下も豊年満作で
その時は初夢でまた逢ひませう

浴衣
子後の浴衣
十の浴衣
浴衣

花衣

2021.4.13 【角川俳句賞2021 桜の国全307句】 選46句

14

啓蟄の成田フライト案内所

咲き初めて一日一日の花衣

吹かば吹け春一番のバスの旅

花満ちて山に水力発電所

特急の停らぬ駅の日永かな

花満ちて涙こらへてゐるやうな

春昼の時報の響く港町

黒雲の割れて日の差す桜かな

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

洛中に金雲湧けり花衣

白鍵の間に黒鍵つばくらめ

ボンネット開けて桜を見せてやる

口中に泥を捏ねたる燕かな

ざあざあと元気な下水桜咲く

つばくらや雨ふる国の深底

一二片落花の封を切らんとす

つかみ難しよ落るナイフも燕も

天晴や東海道に花吹雪

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中

となりの木となりの木へと花吹雪

山あれば水清らかに初桜

太陽の彼方へ永遠の花吹雪

幼子は桜の国の宝なり

この世からあの世へ吹雪く桜かな

村々の小学校の桜かな

女房も一つ年取る桜かな

熱飯に卵を落す朝桜

公園の桜の下に雨宿り

山奥に海を知らざる桜かな

あたたかき涙つめたき花の雨

歳月を押し止めんと大桜

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

きのふ着しものを洗うて朝桜

洛外に雷雲を呼ぶ夜の桜

17行3段組14ポ 2021年4月14日 00:25へ1桐9

蓋あけて天井匂ふ桜の夜

妹の娘に譲る花衣

金魚にするか花火にするか子の浴衣

浴衣着て母校に集ふ祭かな

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

古浴衣古き命を包むなり

蟻の道お天道様が見てをられ

夕立に水車の如し観覧車

爽やかに宇宙を廻る地球かな

覗き見る点検孔の夜長かな

デパートの地下も豊年満作で

その時は初夢でまた逢ひませう

くつがの空の反転雲つむろ、咲いて、妹に、JINに、打5路で

廿化の雨

廿化の夜

花痕れ降りし

二十平はゆきに

廿化の雨

廿化のよき居の兄の

おいおいしそは妹さう

妹よ

2021・4・14 【角川俳句賞2021 桜の国全329句】 選50句

17行3段組14ボ 2021年4月14日 10:06へ1 桐9

啓蟄の成田フライト案内所

咲き初めて一日一日の花衣

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

吹かば吹け春一番のバスの旅

年ごろの姪に着せたる花衣

洛外に雷雲を呼ぶ夜の桜

特急の停らぬ駅の日永かな

山ざくら白く水力発電所

花疲れ降りし電車は回送に

春昼の時報の響く港町

花満ちて涙こらへてゐるやうな

蓋あけて天井匂ふ桜の夜

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

黒雲の割れて日の差す桜かな

金魚にするか花火にするか子の浴衣

白鍵の間に黒鍵つばくらめ

洛中に金雲湧けり花衣

浴衣着て母校に集ふ祭かな

口中に泥を捏ねたる燕かな

ボンネット開けて桜を見せてやる

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

つばくらや雨ふる国の深庇

ざあざあと元気な下水桜咲く

古浴衣古き命を包むなり

つかみ難しよ落るナイフも燕も

一二片落花の封を切らんとす

蟻の道お天道様が見てをられ

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中

晴れ渡る東海道に花吹雪

夕立に水車の如し観覧車

山あれば水を豊かに初桜

となりの木となりの木へと花吹雪

爽やかに宇宙を廻る地球かな

山奥に海を知らざる桜かな

太陽の彼方へ永遠の花吹雪

覗き見る点検孔の夜長かな

幼子は桜の国の宝なり

この世からあの世へ吹雪く桜かな

デパートの地下も豊年満作で

村々の小学校の桜かな

女房も一つ年取る桜かな

暗闇の黒に打ち勝ち雪積る

熱飯に卵を落す朝桜

公園の桜の下に雨宿り

積雪や宿の主も驚きぬ

歳月を押し止めんと大桜

あたたかき涙つめたき花の雨

その時は初夢でまた逢ひませう

きのふ着しものを洗うて朝桜

花の雨甲斐甲斐しきは妹よ

終は自然

【角川俳句賞2021 桜の国全359句】 選50句

16

花を
支那に
付けて
見競
べて
4.17

17行3段組14部 2021年4月16日 10:43へ1桐9

啓蟄の成田フライト案内所

咲き初めて一日一日の花衣

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

吹かば吹け春一番のバスの旅

年ごろの姪にやりたる花衣

洛外に雷雲を呼ぶ夜の桜

特急の停らぬ駅の日永かな

山ざくから白く水力発電所

花疲れ回送電車通りけり

春昼の時報きこゆる港町

満開の花に転んで涙かな

蓋あけて天井匂ふ桜の夜

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

黒雲の割れて日の差す桜かな

金魚にするか花火にするか子の浴衣

白鍵の挟む黒鍵つばくらめ

洛中に金雲湧けり花衣

浴衣着て母校に集ふ祭かな

口中に泥を捏ねたる燕かな

ボンネット開けて桜を見せてやる

宿浴衣見よとばかりに連れず

つばくらや雨ふる国の深底

ざあざあと春の下水の元気なり

古浴衣古き命を包むなり

つかみ難しよ落るナイフも燕も

一二片落花の封を切らんとす

蟻の道お天道様が見てをられ

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中

晴れ渡る東海道に花吹雪

夕立に水車の如し観覧車

山々は水を豊かに山桜

となりの木となりの木へと花吹雪

爽やかに宇宙を廻る地球かな

山奥に海を知らざる山桜

太陽の彼方へ永遠の花吹雪

覗き見る点検孔の夜長かな

幼子は桜の国の宝なり

この世からあの世へ吹雪く桜かな

△デパートの地下も豊年満作で

村々の小学校の桜かな

女房も一つ年取る桜かな

△暗闇の黒に打ち勝ち雪積る

熱飯に卵を落す朝桜

公園の桜の下に雨宿り

△今朝の雪宿の主も息を呑む

歳月を押し止めんと大桜

あたたかき涙つめたき花の雨

その時は初夢でまた逢ひませう

きのふ着しものを洗うて朝桜

花の雨甲斐甲斐しきは妹よ

△了雪は風向く花をば手思は
4.17

黒鍵と白鍵 4/18

17

2021・4・17【角川俳句賞2021 桜の国全372句】選50句

17行3段組14ポ 2021年4月17日 20:32へ1桐9

啓蟄の成田フライト案内所

きのふ着しものを洗うて朝桜

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

吹かば吹け春一番の木の旅

花衣衣桁に掛けて見比べて

落外に雷雲を呼ぶ夜の桜

特急の停らぬ駅の日永かな

年ごろの姪にやりたる花衣

花疲れ回送電車通りけり

春昼の時報きこゆる港町

洛中に金雲湧けり花衣

蓋あけて天井匂ふ桜の夜

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

満開の花に転んで泣く子かな

金魚にするか花火にするか子の浴衣

白鍵の挟む黒鍵つばくらめ

黒雲の割れて日の差す桜かな

浴衣着て母校に集ふ祭かな

口中に泥を捏ねたる燕かな

ボンネット開けて桜を見せてやる

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

つばくらや雨ふる国の深底

ざあざあと春も半ばのマンホール

古浴衣古き命を包むなり

つかみ難しよ落るナイフも燕も

一二片落花の封を切らんとす

蟻の道お天道様が見てをられ

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中

晴れ渡る東海道に花吹雪

夕立に水車の如し観覧車

山々は水を豊かに山桜

となりの木となりの木へと花吹雪

爽やかに宇宙を廻る地球かな

山奥に海を知らざる山桜

太陽の彼方へ永遠の花吹雪

覗き見る点検孔の夜長かな

山桜白く水力発電所

この世からあの世へ吹雪く桜かな

デパートの地下も豊年満作で

幼子は桜の国の宝なり

女房も一つ年取る桜かな

ふる雪は白く夜空は真つ黒な

村々の小学校の桜かな

公園の桜の下に雨宿り

今朝の雪宿の主を驚かす

熱飯に卵を落す朝桜

あたたかき涙つめたき花の雨

その時は初夢でまた逢ひませう

歳月を押し止めんと大桜

花の雨甲斐甲斐しきは妹よ

若中の雪の金をさしたる 4.18

雷雲の匂い 4.18

2021・4・18【角川俳句賞2021 桜の国全393句】選47句

17行3段組14ポ 2021年4月18日 12:47 へい桐9

啓蟄の成田フライト案内所 歳月を押し返さんと大桜

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

吹かば吹け春一番の空の旅 花衣衣桁に掛けて見比べて

花疲れ回送電車通りけり

特急の停らぬ駅の日永かな 年ごろの姪にやりたる花衣

蓋あけて天井匂ふ桜の夜

春昼の時報きこゆる港町 満開の花に転んで泣く子かな

金魚にするか花火にするか子の浴衣

春雷にグラスを磨く男かな 黒雲の割れて日の差す桜かな

浴衣着て母校に集ふ祭かな

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に ボンネット開けて桜を見せてやる

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

白鍵の挟む黒鍵つばくらめ ざあざあと春も半ばのマンホール

古浴衣古き命を包むなり

口中に泥を捏ねたる燕かな 一二片落花の封を切らんとす

蟻の道お天道様が見てをられ

つばくらや雨ふる国の深庇 旅人の 東海道の花吹雪

夕立の天に近づく観覧車

つかみ難しよ落るナイフも燕も となりの木となりの木へと花吹雪

爽やかに宇宙を廻る地球かな

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中 ^{太陽の彼方へ永遠の花吹雪}

覗き見る点検孔の夜長かな

山々は水^{水のほろ}を豊かに山桜 ^{この世からあの世へ吹雪く桜かな}

ふる雪は白く夜空は真つ黒な

山奥に海を知らざる山桜 ^{女房も一つ年取る桜かな}

その時は初夢でまた逢ひませう

山桜白く水力発電所 公園の桜の下に雨宿り

幼子は桜の国の宝なり ^{あたたかき涙つめたき花の雨}

村々の小学校の桜かな ^{寺までは泥の坂道花の雨}

熱飯に卵を落す朝桜 ^{花満ちて雷雲を呼ぶゆふべかな}

山々に水^{水のほろ}を豊かに山桜 4.18

あたたかき涙つめたき花の雨

2021・4・19【角川俳句賞2021 桜の国全399句】 選47句

17行3段組14ポ 2021年4月19日 00:38 へ1 桐9

啓蟄の成田フライト案内所 歲月に流されまいと大桜

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

吹かば吹け春一番の空の旅 花衣衣桁に掛けて見比べて

花疲れ回送電車通りけり

特急の停らぬ駅の日永かな 年ごろの姪にやりたる花衣

蓋あけて天井匂ふ桜の夜

春昼の時報きこゆる港町 満開の花に転んで泣く子かな

金魚にするか花火にするか子の浴衣

春雷にグラスを磨く男かな 黒雲の割れて日の差す桜かな

浴衣着て母校に集ふ祭かな

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に ボンネット開けて桜を見せてやる

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

白鍵の挟む黒鍵つばくらめ ざあざあと春も半ばのマンホール

古浴衣古き命を包むなり

口中に泥を捏ねたる燕かな 一二片落花の封を切らんとす

蟻の道お天道様が見てをられ

つばくらや雨ふる国の深底 旅人の~~行けは~~東海道の花吹雪

夕立の天に近づく観覧車

つかみ難しよ落るナイフも燕も となりの木となりの木へと花吹雪

爽やかに宇宙を廻る地球かな

ゆつくりと浅瀬のたうつ鍋の中 この世からあの世へ吹雪く桜かな

覗き見る点検孔の夜長かな

山々に^H真水^{とためて貯}しみ入る山桜 女房も一つ年取る桜かな

ふる雪は白く夜空は真つ黒な

山奥に海を知らざる山桜 公園の桜の下の雨宿り

その時は初夢でまた逢ひませう

山桜白く水力発電所 あたたかき涙つめたき花の雨

炭のまきもみも泣りて

幼子は桜の国の宝なり 玉砂利の労をねぎらふ花の雨

炭の山

村々の小学校の桜かな 寺までのゆるい坂道花の雨

まじりの山より 炭の山

熱飯に卵を落す朝桜 花満ちて雷雲を呼ぶゆふべかな

寒村の一条路の雪をかま

国寄り

20

2021・4・19【角川俳句賞2021 桜の国全407句】選35句

去年に立つ十年の大桜

49

17行3段組14ボ 2021年4月19日 22:09へ1桐9

△啓蟄の成田フライト案内所

歳月に流されまいと大桜

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

吹かば吹け春一番の空の旅

花衣衣桁に掛けて見比べて

花疲れ回送電車通りけり

特急の停らぬ駅の日永かな

年ごろの煙にやりたる花衣

蓋あけて天井匂ふ桜の夜

春昼の時報きこゆる港町

満開の花に転んで泣く子かな

金魚にするか花火にするか子の浴衣

春雷にグラスを磨く男かな

黒雲の割れて日の差す桜かな

浴衣着て母校に集ふ祭かな

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

ボンネット開けて桜を見せてやる

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

白鍵の挟む黒鍵つばくらめ

ざあざあと春も半ばのマンホール

古浴衣古き命を包むなり

口中に泥を捏ねたる燕かな

一二片落花の封を切らんとす

蟻でなきものも混じりて蟻の列

つばくらや雨ふる国の深底

旅人の東海道の花吹雪

蟻の道お天道様が見てをられ

つかみ難しよ落るナイフも燕も

となりの木となりの木へと花吹雪

夕立の天に近づく観覧車

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中

この世からあの世へ吹雪く桜かな

爽やかに宇宙を廻る地球かな

山々は真水を貯めて山桜

女房も一つ年取る桜かな

覗き見る点検孔の夜長かな

山奥に海を知らざる山桜

公園の桜の下の雨宿り

寒林の真ん中にある寒さかな

山桜白く水力発電所

あたたかき涙つめたき花の雨

ふる雪は白く夜空は真つ黒な

幼子は桜の国の宝なり

玉砂利の労をねぎらふ花の雨

その時は初夢でまた逢ひませう

熱飯に卵を落す朝桜

寺までのゆるい坂道花の雨

花満ちて雷雲を呼ぶゆふべかな

村々の小学校の桜かな

2021・2021【角川俳句賞2021 桜の国全435句】選49句

起承と観念の同格致し

咲く梅がそ

17行3段組14ポ 2021年4月20日 13:09 ↑ 桐9

啓蟄や平日午後

歳月に超然と散る桜かな

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

吹かば吹け春一番の空の旅

花衣衣桁に掛けて見比べて

花疲れ回送電車通りけり

特急の停らぬ駅の日永かな

年ごろの姪にやりたる花衣

蓋あけて天井匂ふ桜の夜

春昼の時報きこゆる港町

黒雲の割れて日の差す桜かな

金魚にするか花火にするか子の浴衣

春雷にグラスを磨く男かな

ボンネット開けて桜を見せてやる

浴衣着て母校に集ふ祭かな

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

ざあざあと春も半ばのマンホール

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

白鍵の挟む黒鍵つばくらめ

一二片落花の封を切らんとす

古浴衣古き命を包むなり

口中に泥を捏ねたる燕かな

飛花落花身も世もあらず泣く子かな

蟻でなきものも混りて蟻の列

つばくらや雨ふる国の深底

暁闇の東海道の花吹雪

蟻の道お天道様が見てをられ

つかみ難しよ落るナイフも燕も

となりの木となりの木へと花吹雪

夕立の天に近づく観覧車

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中

この世からあの世へ吹雪く桜かな

爽やかに宇宙を廻る地球かな

山々は真水の宝庫山桜

女房も一つ年取る桜かな

覗き見る点検孔の夜長かな

山奥に海を知らざる山桜

満開の花に雷雲来りけり

寒林の真ん中にある寒さかな

山桜白く水力発電所

公園の桜の下の雨宿り

ふる雪は白く夜空は真つ黒な

幼子は桜の国の宝なり

あたたかき涙つめたき花の雨

その時は初夢でまた逢ひませう

熱飯に卵を落す朝桜

玉砂利の労をねぎらふ花の雨

村々の小学校の桜かな

寺までのゆるい坂道花の雨

桜

桜

2021.4.20 【角川俳句賞2021 桜の国全443句】 選49句

22

啓蟄や平日午後^に発つ羽田 花衣いくつ衣桁に掛けさせて 咲き満ちて月にまみゆる桜かな

吹かば吹け春一番の空の旅 年ごろの姪にやりたる花衣 花疲れ回送電車通りけり

特急の停らぬ駅の日永かな 黒雲の割れて日の差す桜かな 蓋あけて天井匂ふ桜の夜

春昼の時報きこゆる港町 ボンネット開けて桜を見せてやる 金魚にするか花火にするか子の浴衣

春雷にグラスを磨く男かな ざあざあと春も半ばのマンホール 浴衣着て母校に集ふ祭かな

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に 歳月に超然と立つ桜かな 宿浴衣見よとばかりに干し連ね

白鍵の挟む黒鍵つばくらめ 一二片落花の封を切らんとす 古浴衣古き命を包むなり

口中に泥を捏ねたる燕かな ~~暁~~ 闇の東海道の花吹雪 蟻でなきものも混りて蟻の列

つばくらや雨ふる国の深庇 となりの木となりの木へと花吹雪 蟻の道お天道様が見てをられ

つかみ難しよ落るナイフも燕も 花ふぶき身も世もあらず泣く子かな 夕立の天に近づく観覧車

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中 この世からあの世へ吹雪く桜かな 爽やかに宇宙を廻る地球かな

熱飯に卵を落す初桜 女房も一つ年取る桜かな 覗き見る点検孔の夜長かな

幼子は桜の国の宝なり 満開の花に雷雲来りけり 寒林の真ん中にある寒さかな

村々の小学校の桜かな 公園の桜の下の雨宿り ふる雪は白く夜空は真つ黒な

山々は真水の宝庫山桜 あたたかき涙つめたき花の雨 その時は初夢でまた逢ひませう

山奥に海を知らざる山桜 玉砂利の労をねぎらふ花の雨

山桜白く水力発電所 寺までのゆるい坂道花の雨

2021年4月20日【角川俳句賞2021 桜の国全447句】選50句

23 正月の早しき春の初夢の中

啓蟄や平日午後に発つ羽田 山桜白く水力発 電所

吹かば吹け春一番の空の旅 花衣いくつ衣桁に掛けさせて

特急の停らぬ駅の日永かな 年ごろの姪にやりたる花衣

春昼の時報きこゆる港町 黒雲の割れて日の差す桜かな

春雷にグラスを磨く男かな ボンネット開けて桜を見せてやる

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に ざあざあと春も半ばのマンホール

白鍵の挟む黒鍵つばくらめ 歳月に超然と立つ桜かな

口中に泥を捏ねたる燕かな 一二片落花の封を切らんとす

つばくらや雨ふる国の深底 となりの木となりの木へと花吹雪

つかみ難しよ落るナイフも燕も 花ふぶき身も世もあらず泣く子かな

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中 この世からあの世へ吹雪く桜かな

暖閣の東海道に桜咲く 女房も一つ年取る桜かな

熱飯に卵を落す初桜 満開の花に雷雲来りけり

幼子は桜の国の宝なり 公園の桜の下に雨宿り

村々の小学校の桜かな あたたかき涙つめたき花の雨

山々は真水の宝庫山桜 玉砂利の労をねぎらふ花の雨

山奥に海を知らざる山桜 寺までのゆるい坂道花の雨

17行3段組14ポ 2021年4月20日 17:56 へ1 桐9

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

花疲れ回送電車通りけり

蓋あけて天井匂ふ桜の夜

金魚にするか花火にするか子の浴衣

浴衣着て母校に集ふ祭かな

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

古浴衣古き命を包むなり

迷ひたる蟻か一目散に駆く

蟻でなきものも混りて蟻の列

蟻の道お天道様が見てをられ

夕立の天に近づくと観覧車

爽やかに宇宙を廻る地球かな

覗き見る点検孔の夜長かな

寒林の真ん中にある寒さかな

ふる雪は白く夜空は真つ黒な

その時は初夢でまた逢ひませう

折角見られたアツカ <3>のまね 4.21 アツカみえ 4.29

非常な江・ゆくとゆくは やつこり

初夢と現世とのまよりのせう、叶えをう ねがはくは 初夢の中で ぼんぼり(ぼんぼり) (中つり)

押 → PJf → 区 32?

24

の世を云々汽がのんう花
あつんみんとこのんう花

2021.5.7【角川俳句賞2021 桜の国全494句】選47句

啓蟄や平日午後の世を云々汽がのんう花に発つ羽田 山桜白く水力発電所
吹かば吹け春一番の世を云々汽がのんう花の空の旅 花衣古き衣桁も持ち出され

特急の停らぬ駅の日永かな ボンネット開けて桜を見せてやる
春昼の時報きこゆる港町 歳月に超然と立つ桜かな

春雷にグラスを磨く男かな 寺までのゆるい坂道花を見に
蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に 一二片落花の封を切らんとす

白鍵の挟む黒鍵つばくらめ となりの木となりの木へと花吹雪
口中に泥を捏ねたる燕かな 花ふぶき赤子は永久に泣き止まず

つばくらや雨ふる国の深底 この世からあの世へ吹雪く桜かな
つかみ難しよ落るナイフも燕も 女房も一つ年取る桜かな

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中 満開の花に雷神来りけり
熱飯に卵を落す朝桜 公園の桜の下の雨宿り

幼子は桜の国の宝なり あたたかき涙つめたき花の雨
洗桶と洗濯籠と朝桜 玉砂利のははきをねぎらふ花の雨

村々の小学校の桜かな 咲き満ちて月にまみゆる桜かな
山奥に海を知らざる山桜 花疲れ回送電車通りけり

山々は水を蓄へ山桜 蓋あけて天井匂ふ桜の夜

しん花の物

17行3段組14ポ 2021年5月7日 13:14 へ1 桐9

ざあざあと夏も近づくとマンホール

金魚にするか花火にするか子の浴衣

浴衣着て母校に集ふ祭かな

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

古浴衣古き命を包むなり

朗報の蟻か一目散に駆く

蟻でなきものも混りて蟻の列

蟻の道お天道様が見てをられ

夕立の天に捧げる観覧車

爽やかに宇宙を廻る地球かな

覗き見る点検孔の夜長かな

寒林の真ん中にある寒さかな

初夢でまた逢ふことを楽しみに

リニアで

おくら

正岡の

正岡

25

2021・5・7【角川俳句賞2021 桜の国全506句】選48句

水をまろくしたまぐさの雨

啓蟄やぶるんぶるんとプロペラ機

山桜白く水力発電所

蓋あけて天井匂ふ桜の夜

吹かば吹け春一番の空の旅

花衣古き衣桁も持ち出され

ざあざあと夏も近づくマンホール

特急の停らぬ駅の日永かな

ボンネット開けて桜を見せてやる

金魚にするか花火にするか子の浴衣

春昼の時報きこゆる港町

歳月に超然と立つ桜かな

浴衣着て母校に集ふ祭かな

春雷にグラスを磨く男かな

花を見にゆるい坂道弁当箱

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

一二片落花の封を切らんとす

古浴衣古き命を包むなり

白鍵の挟む黒鍵つばくらめ

となりの木となりの木へと花吹雪

朗報の蟻か一目散に駆く

口中に泥を捏ねたる燕かな

花ふぶき赤子は永久に泣き止まず

蟻でなきものを大事に蟻の列

つばくらや雨ふる国の深底

この世からあの世へ吹雪く桜かな

蟻の道お天道様が見てをられ

つかみ難しよ落るナイフも燕も

女房も一つ年取る桜かな

夕立の天に捧げる観覧車

ゆつくりと浅蜷のたうつ鍋の中

満開の花に雷神来りけり

爽やかに宇宙を廻る地球かな

熱飯に卵を落す朝桜

公園の桜の下の雨宿り

覗き見る点検孔の夜長かな

幼子は桜の国の宝なり

あたたかき涙つめたき花の雨

寒林の真ん中にある寒さかな

洗桶と洗濯籠と朝桜

玉砂利の上に花見の忘れ物

初夢でまた逢ふことを楽しみに

村々の小学校の桜かな

寺までの泥濘つづく花の雨

かみせも正月のあまのこを運ばせ

山奥に海を知らざる山桜

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

増りなと治り治る世の雨

山々は水を蓄へ山桜

花疲れ回送電車通りけり

上ノ原は国

かみせも正月のあまのこを運ばせ
増りなと治り治る世の雨
上ノ原は国

腸の足はん
あつたれ

ライトM=!

2021・5・7【角川俳句賞2021 夢で逢ひませう 全515句】

選50句 2021年5月7日 21:22 桐9

啓蟄やぶるんぶるとプロペラ機 山桜白く水力発電所

吹かば吹け春一番の空の旅 花衣古き衣桁も持ち出され

特急の停らぬ駅に日の永し 花を見にゆるい坂道お弁当

春昼の時報きこゆる港町 ボンネット開けて桜を見せてやる

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に 歳月に超然と立つ桜かな

白鍵の挟む黒鍵つばくらめ 一二片落花の封を切らんとす

口中に泥を捏ねたる燕かな となりの木となりの木へと花吹雪

つばくらや雨ふる国の深底 花ふぶき赤子は永久に泣き止まず

つかみ難しよ落るナイフも燕も この世からあの世へ吹雪く桜かな

春雷にグラスを磨く男かな 女房も一つ年取る桜かな

ゆるゆると浅蜷のたうつ鍋の中 玉砂利の上に花見の忘れ物

熱飯に卵を落す朝桜 満開の花に雷神来りけり

幼子は桜の国の宝なり [△]あたたかき涙つめたき花の雨

洗桶と洗濯籠と朝桜 寺までの泥濘つづく花の雨

村々の小学校の桜かな 公園の桜の下の雨宿り

山奥に海を知らざる山桜 滑り台を滑り止まざる花の雨

山々は水を蓄へ山桜 咲き満ちて月にまみゆる桜かな

花疲れ回送電車通りけり

蓋あけて天井匂ふ桜の夜

ざあざあと夏も近づくマンホール

金魚にするか花火にするか子の浴衣

浴衣着て母校に集ふ祭かな

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

古浴衣古き命を包むなり

朗報の蟻か一目散に駆く

蟻の道お天道様が見てをられ

蟻でなきものを大事に蟻の列

腸の運ばれて行く蟻の道

夕立の天に捧げる観覧車

爽やかに宇宙を廻る地球かな

覗き見る点検孔の夜長かな

寒林の真ん中にゐる寒さかな

かの世も正月然らば夢で逢ひませう

可憐の返は三毛が 手紙を下さい

日の影を32に 行って33 5.8

山は桜

花の雨も滑り止まざる花の雨 5.10

この世も

2021・5・10【角川俳句賞2021 夢で 全536句】 選49句

17行3段組14ポ 2021年5月10日 06:54 へー桐9

吹かば吹け春一番の空の旅 花衣古き衣桁も持ち出され

ざあざあと夏も近づくマンホール

特急の走らぬ町の日永かな 花を見にゆるい坂道お弁当

金魚にするか花火にするか子の浴衣

春昼の時報きこゆる港町 ボンネット開けて桜を見せてやる

浴衣着て母校に集ふ祭かな

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に 歳月に超然と立つ桜かな

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

白鍵の挟む黒鍵つばくらめ 一二片落花の封を切らんとす

古浴衣古き命を包むなり

口中に泥を捏ねたる燕かな となりの木となりの木へと花吹雪

鱗粉の幽かな汚れ捕虫網

つばくらや雨ふる国の深底 花ふぶき赤子は永久に泣き止まず

朗報の蟻か一目散に駆く

つかみ難しよ落るナイフも燕も この世からあの世へ吹雪く桜かな

蟻の道お天道様が見てをられ

春雷にグラスを磨く男かな 女房も一つ年取る桜かな

蟻でなきものを大事に蟻の列

ゆるゆると浅蜷のたうつ鍋の中 玉砂利の上に花見の忘れ物

腸の運ばれて行く蟻の道

熱飯に卵を落す朝桜 満開の花に雷神来りけり

夕立の天に捧げる観覧車

幼子は桜の国の宝なり 寺までの泥濘つづく花の雨

爽やかに宇宙を廻る地球かな

洗桶と洗濯籠と朝桜 公園の桜の下の雨宿り

覗き見る点検孔の夜長かな

村々の小学校の桜かな 花の雨も滑るが良けれ滑り台

寒林の真ん中にある寒さかな

山奥に海を知らざる山桜 咲き満ちて月にまみゆる桜かな

かの世にも新年夢で逢ひませう

山々は水を蓄へ山桜 花疲れ回送電車通りけり

山に山桜水力発電所 蓋あけて天井匂ふ花の夜

28

2021.5.10【角川俳句賞2021 夢で 全550句】 選48句

17行3段組14ポ 2021年5月10日 10:50 へ1 桐9

吹かば吹け春一番の空の旅
特急の走らぬ町の日永かな
春昼の時報きこゆる港町
蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

花衣古き衣桁も持ち出して
お花見に長き坂道お弁当
ボンネット開けて桜を見せてやる
歳月に超然と立つ桜かな

白鍵の挟む黒鍵つばくらめ
口中に泥を捏ねたる燕かな
つばくらや雨ふる国の深底
つかみ難しよ落るナイフも燕も

一二月落花の封を切らんとす
となりの木となりの木へと花吹雪
花ふぶき赤子は永久に泣き止まず
この世からあの世へ吹雪く桜かな

春雷にグラスを磨く男かな
ゆるゆると浅蜷のたうつ鍋の中
熱飯に卵を落す朝桜
幼子は桜の国の宝なり

女房も一つ年取る桜かな
玉砂利の上に花見の忘れ物
下水へと真つ逆さまや花の雨
公園の桜の下の雨宿り

洗桶と洗濯籠と朝桜
村々の小学校の桜かな
山奥に海を知らざる山桜
山々は水を蓄へ山桜

花の雨も流れて楽し滑り台
咲き満ちて月にまみゆる桜かな
花疲れ回送電車通りけり
蓋あけて天井匂ふ花の夜

山に山桜水力発電所
ざあざあと夏も近づくマンホール

かの子の浴衣
浴衣着て母校に集ふ祭かな
宿浴衣見よとばかりに干し連ね
古浴衣古き命を包むなり

白の雨の
カサリムツ
かの子の浴衣
浴衣着て母校に集ふ祭かな
宿浴衣見よとばかりに干し連ね
古浴衣古き命を包むなり

2021.5.11【角川俳句賞2021 夢で 全574句】 選47句

17行3段組14ポ 2021年5月11日 12:38 へ1 桐9

吹かば吹け春一番の空の旅 花衣古き衣桁も持ち出して

特急の走らぬ町の日永かな お花見へ坂道上るお弁当

春昼の時報きこゆる港町 ボンネット開けて桜を見せてやる

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に 歳月に超然と立つ桜かな

白鍵の挟む黒鍵つばくらめ 一二片落花の封を切らんとす

口中に千金の泥つばくらめ となりの木となりの木へと花吹雪

つばくらや雨ふる国の深底 花ふぶき赤子は永久に泣き止まず

つかみ難しよ落るナイフも燕も この世からあの世へ吹雪く桜かな

春雷にグラスを磨く男かな 女房も一つ年取る桜かな

がさごそと浅蜷のたうつ鍋の中 玉砂利の上に花見の忘れ物

熱飯に卵を落す朝桜 下水へと真つ逆さまや花の雨

幼子は桜の国の宝なり 公園の桜の下の雨宿り

洗桶と洗濯籠と朝桜 花の雨の流れ止まざる滑り台

村々の小学校の桜かな 咲き満ちて月にまみゆる桜かな

山奥に海を知らざる山桜 花疲れ回送電車通りけり

山々は水を蓄へ山桜 蓋あけて天井匂ふ花の夜

山に山桜水力発電所 ざあざあと夏も近づくマンホール

金魚にするか花火にするか子の浴衣

浴衣着て母校に集ふ祭かな

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

古浴衣古き命を包むなり

鱗粉の幽かな汚れ捕虫網

朗報の蟻か一目散に駆く

蟻の道お天道様が見てをられ

蟻でなきものを大事に蟻の列

夕立の天に捧げる観覧車

爽やかに宇宙を廻る地球かな

覗き見る点検孔の夜長かな

寒林の真ん中にゐる寒さかな

かの世にも新年夢で逢ひませう

2021.5.11 【角川俳句賞2021 夢で全613句】 選61句

12行3段組14ポ 2021年5月11日 17:25へ1桐9

~~道のべに阿波の遍路の墓ふゆる~~

きゆつと鳴く踏んで幼き霜柱

幼子は桜の国の宝なり

菜の花や明日ある如く咲き続く

吹かば吹け春一番の空の旅

洗桶と洗濯籠と朝桜

~~原本は横たへられて梅雨の空~~

特急の走らぬ町の日永かな

村々の小学校の桜かな

地球儀は西日の部屋に孤独なり

春昼の時報きこゆる港町

山奥に海を知らざる山桜

なすすべもなくして滴るにはあらず

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

山々は水の守護神山桜

~~軽く汗かくを忘れず健康に~~

白鍵の挟む黒鍵つばくらめ

山に山桜水力発電所

~~冷蔵庫の奥にプリンを閉ぢ込めて~~

口中に千金の泥つばくらめ

花衣古き衣桁も持ち出して

~~眩しさの裸電球夏祭~~

つばくらや雨ふる国の深底

お花見へ坂道上るお弁当

~~生きてゐる青白黒や黴の声~~

つかみ難しよ落るナイフも燕も

ボンネット開けて桜を見せてやる

~~行く声と来る声秋の電話線~~

春雷にグラスを磨く男かな

歳月に超然と立つ桜かな

~~夕方は昼間の終り秋の暮~~

がさごそと浅蜷のたうつ鍋の中

一二片落花の封を切らんとす

清流に小枝放りぬ初紅葉

熱飯に卵を落す朝桜

となりの木となりの木へと花吹雪

30

2021.5.11 【角川俳句賞2021 夢で全613句】 選61句

12行3段組14ポ 2021年5月11日 17:25 へ2 へ桐9

花ふぶき赤子は永久に泣き止まず 浴衣着て母校に集ふ祭かな かの世にも新年夢で逢ひませう

この世からあの世へ吹雪く桜かな 宿浴衣見よとばかりに干し連ね

女房も一つ年取る桜かな 古浴衣古き命を包むなり

玉砂利の上に花見の忘れ物 蟬の穴地下から掘つて来りけり

公園の桜の下の雨宿り 鱗粉の幽かな汚れ捕虫網

花の雨の流れ止まざる滑り台 朗報の蟻か一目散に駆く

下水へと真つ逆さまや花の雨 蟻の道お天道様が見てをられ

咲き満ちて月にまみゆる桜かな 蟻でなきものを大事に蟻の列

花疲れ回送電車通りけり 夕立の天に捧げる観覧車

蓋あけて天井匂ふ花の夜 爽やかに宇宙を廻る地球かな

ざあざあと夏も近づくマンホール 覗き見る点検孔の夜長かな

金魚にするか花火にするか子の浴衣 寒林の真ん中にゐる寒さかな

2021.5.12【角川俳句賞2021 夢で〜全626句】 選51句

17行3段組14ポ 2021年5月12日 11:20 へ1✓桐9

吹かば吹け春一番の空の旅 家を出てお花見へ行くお弁当
特急の走らぬ町の日永かな ポンネット開けて桜を見せてやる
浴衣着て母校に集ふ祭かな

春昼の時報きこゆる港町 歳月に超然と立つ桜かな
宿浴衣見よとばかりに干し連ね

音のなき宇宙に浮び轉るよ 一二片落花の封を切らんとす
古浴衣古き命を包むなり

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に となりの木となりの木へと花吹雪
蝉の穴地下から掘つて来りけり

口中に千金の泥つばくらめ 花ふぶき赤子は永久に泣き止まず
鱗粉の幽かな汚れ捕虫網

つばくらや雨ふる国の深底 女房も一つ年取る桜かな
朗報の蟻か一目散に駆く

つかみ難しよ落るナイフも燕も 玉砂利の上に花見の忘れ物
蟻もまた蛇に習ひて列をなす

春雷にグラスを磨く男かな 滑り台の板を流るる花の雨
蟻の道お天道様が見てをられ

がさごそと浅蜷のたうつ鍋の中 下水へと真つ逆さまや花の雨
蟻でなきものを大事に蟻の列

熱飯に卵を落す朝桜 咲き満ちて月にまみゆる桜かな
夕立の天に捧げる観覧車

幼子は桜の国の宝なり 花疲れ回送電車通りけり
行く声と来る声秋の電話線

洗桶と洗濯籠と朝桜 蓋あけて天井匂ふ花の夜
夕方は昼間の終り秋の暮

村々の小学校の桜かな ざあざあと夏も近づくとマンホール
覗き見る点検孔の夜長かな

山奥に海を知らざる山桜 へモノクロもカラーも全て黴の声
寒林の真ん中にゐる寒さかな

山に山桜水力発電所 ますすべもなくして滴るにはあらず
きゆつと鳴く踏んで幼き霜柱

花衣古き衣桁も持ち出して 眩しさの裸電球夏祭
かの世にも新年夢で逢ひませう

馬をなくして何の何の
日子かな

先例の地に於ては
蟻の列

2021.5.12【角川俳句賞2021 夢で〜全636句】選50句

17行3段組14ポ 2021年5月12日 17:51へい桐9

啓蟄の首都に乗換案内図 花衣古き衣桁も持ち出して 金魚にするか花火にするか子の浴衣
 吹かば吹け春一番の空の旅 家を出てお花見へ行くお弁当 浴衣着て母校に集ふ祭かな サレたの夜
 特急と疎遠な町の日永かな ボンネット開けて桜を見せてやる 宿浴衣見よとばかりに干し連ね
 春昼の時報きこゆる港町 歳月に超然と立つ桜かな 古浴衣古き命を包むなり
 あまたある星のひとつが轉るよ ひとひらが落花の封を切らんとす 蝉の穴地下から掘つて来りけり
 蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に となりの木となりの木へと花吹雪 鱗粉の幽かな汚れ捕虫網
 口中に千金の泥つばくらめ 花ふぶき赤子は永久に泣き止まず 朗報の蟻か一目散に駆く
 つばくらや雨ふる国の深底 女房も一つ年取る桜かな 蟻の道お天道様が見てをられ
 つかみ難しよ落るナイフも燕も 玉砂利の上に花見の忘れ物 蟻でなきものを大事に蟻の列
 春雷にグラスを磨く男かな 滑り台の板を流るる花の雨 夕立の天に捧げる観覧車
 がさごそと浅蜷のたうつ鍋の中 下水へと真つ逆さまや花の雨 行く声と来る声秋の電話線
 熱飯に卵を落す朝桜 咲き満ちて月にまみゆる桜かな 夕方は昼間の終り秋の暮
 幼子は桜の国の宝なり 花疲れ回送電車通りけり 覗き見る点検孔の夜長かな
 洗桶と洗濯籠と朝桜 蓋あけて天井匂ふ花の夜 寒林の真ん中にゐる寒さかな
 村々の小学校の桜かな ざあざあと夏も近づくマンホール きゆつと鳴く踏んで幼き霜柱
 山奥に海を知らざる山桜 モノクロもカラーも全て黴の声 かの世にも新年夢で逢ひませう
 山に山桜水力発電所 眩しさの裸電球夏祭

2021・5・12【角川俳句賞2021 夢で〜全643句】選句⁵⁰

17行3段組14ポ 2021年5月12日 20:32 へ1 桐9

啓蟄の首都に乗換案内図 花衣古き衣桁も持ち出して 金魚にするか花火にするか子の浴衣
 吹かば吹け春一番の空の旅 家を出てお花見へ行くお弁当 浴衣着て母校に集ふ花火の夜
 特急と疎遠な町の日永宿 ボンネット開けて桜を見せてやる 宿浴衣見よとばかりに干し連ね
 春昼の時報きこゆる港町 歳月に超然と立つ桜かな 古浴衣古き命を包むなり
 あまたある星のひとつが囀るよ ひとひらが落花の封を切らんとす 蟬の穴地下から掘って来りけり
 蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に となりの木となりの木へと花吹雪 鱗粉の幽かな汚れ捕虫網
 口中に千金の泥つばくらめ 花ふぶき赤子は永久に泣き止まず 朗報の蟻か一目散に駆く
 つばくらや雨ふる国の深底 女房も一つ年取る桜かな 蟻の道お天道様が見てをられ
 つかみ難しよ落るナイフも燕も 玉砂利の上に花見の忘れ物 夕立の天に捧げる観覧車
 春雷にグラスを磨く男かな 滑り台の板のきらめき花の雨 行く声と来る声秋の電話線
 がさごそと浅蜷のたうつ鍋の中 下水へと真つ逆さまや花の雨 夕方は昼間の終り秋の暮
 熱飯に卵を落す朝桜 咲き満ちて月にまみゆる桜かな 覗き見る点検孔の夜長かな
 洗桶と洗濯籠と朝桜 花疲れ回送電車通りけり 寒林の真ん中にゐる寒さかな
 幼子は御国の宝桜咲く 蓋あけて天井匂ふ花の夜 きゆつと鳴く踏んで幼き霜柱
 村々の小学校の桜かな ざあざあと夏も近づくマンホール かの世にも新年夢で逢ひませう
 山奥に海を知らざる山桜 モノクロもカラーも全て黴の声
 山に山桜水力発電所 眩しさの裸電球夏祭

御国の主 妻ゆつてあまきお花見えへ

17行3段組14ポ 2021年5月16日 14:01へ1桐9

啓蟄の首都に乗換案内図
吹かば吹け春一番の空の旅

花衣古き衣桁も持ち出して
家を出てお花見へ行く弁当箱

金魚にするか花火にするか子の浴衣
浴衣着て母校に集ふ花火の夜

特急と疎遠な町の日永宿

ボンネット開けて桜を見せてやる

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

春昼の時報きこゆる港町

歳月に超然と立つ桜かな

古浴衣古き命を包むなり

あまたある星のひとつが囀るよ

ひとひらが落花の封を切らんとす

蝉の穴地下から掘つて来りけり

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

となりの木となりの木へと花吹雪

鱗粉の幽かな汚れ捕虫網

口中に千金の泥つばくらめ

花ふぶき赤子は永久に泣き止まず

朗報の蟻か一目散に駆く

つばくらや雨ふる国の深底

女房も一つ年取る桜かな

蟻の道お天道様が見てをられ

つかみ難しよ落るナイフも燕も

玉砂利の上に花見の忘れ物

蟻でなきものを大事に観覧車

春雷にグラスを磨く男かな

滑り台の板のきらめき花の雨

夕立の天に捧げる観覧車

がさごそと浅蜷のたうつガスの鍋

下水へと真つ逆さまや花の雨

行く声と来る声秋の電話線

熱飯に卵を落とす朝桜

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

夕方は昼間の終り秋の暮

洗桶と洗濯籠と朝桜

花疲れ回送電車通りけり

覗き見る点検孔の夜長かな

幼子は御国の宝桜咲く

蓋あけて天井匂ふ花の夜

寒林の真ん中にゐる寒さかな

村々の小学校の桜かな

ざあざあと夏も近づくマンホール

きゆつと鳴く踏んで幼き霜柱

山奥に海を知らざる山桜

モノクロもカラーも全て黴の声

初恋の人の初夢こんにちは

山に山桜水力発電所

眩しさの裸電球夏祭

初夢で妻と語らふ目出度さよ

初夢に妻と語らふ目出度さよ

初夢で妻と語らふ目出度さよ

初夢の妻と語らふ目出度さよ

2021.5.16 角川俳句賞2021

御国の宝 全598句

選50句

行3段組14ポ 2021年5月16日 22:38 へ1 桐9

啓蟄の首都に乗換案内図

花衣古き衣桁も持ち出して

金魚にするか花火にするか子の浴衣

吹かば吹け春一番の空の旅

坂道をすたこら花見弁当が

浴衣着て母校に集ふ花火の夜

特急と疎遠な町の日永宿

ボンネット開けて桜を見せてやる

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

春昼の時報きこゆる港町

歳月に超然と立つ桜かな

古浴衣古き命を包むなり

あまたある星のひとつが轉るよ

ひとひらが落花の封を切らんとす

蟬の穴地下から掘つて来りけり

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

となりの木となりの木へと花吹雪

鱗粉の幽かな汚れ捕虫網

口中に千金の泥つばくらめ

花ふぶき赤子は永久に泣き止まず

朗報の蟻か一目散に駆く

つばくらや雨ふる国の深底

女房も一つ年取る桜かな

蟻の道お天道様が見てをられ

つかみ難しよ落るナイフも燕も

玉砂利の上に花見の忘れ物

蟻でなきものを大事に蟻の列

春雷にグラスを磨く男かな

滑り台の板のきらめき花の雨

夕立の天に捧げる観覧車

がさごそと浅蜷のたうつガスの鍋

下水へと真つ逆さまや花の雨

行く声と来る声秋の電話線

熱飯に卵を落す朝桜

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

夕方は昼間の終り秋の暮

洗桶と洗濯籠と朝桜

花疲れ回送電車通りけり

覗き見る点検孔の夜長かな

幼子は御国の宝桜咲く

蓋あけて天井匂ふ花の夜

寒林の真ん中にゐる寒さかな

村々の小学校の桜かな

ざあざあと夏も近づくマンホール

きゆつと鳴く踏んで幼き霜柱

山奥に海を知らざる山桜

モノクロもカラーも全て黴の声

初夢に初恋の人こんにちは

山に山桜水力発電所

眩しさの裸電球夏祭

ふたところと三つ所の花と年がが5.17 来5.19 花見弁当届けに来

9.19.19.19.19

15.5.21

5.22

9.22

9.22

蓋あけて

ざあざあと

夏も近づく

寒林の真ん中

にゐる

寒さかな

初夢に初恋の人

こんにちは

2021.5.23【角川俳句賞2021

御国の宝 全612句】選50句

行3段組14ポ 2021年5月23日 09:59へ1桐9

啓蟄の首都に乗換案内図

花衣母の衣桁も持ち出して

金魚にするか花火にするか子の浴衣

吹かば吹け春一番の空の旅

すたこらと花見弁当^{ひまわり}に来

浴衣着て母校に集ふ花火の夜

特急と疎遠な村の日永宿

ボンネット開けて桜を見せてやる

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

春昼の時報きこゆる港町

歳月に超然と立つ桜かな

古浴衣古き命を包むなり

あまたある星のひとつが囀るよ

ひとひらが落花の封を切らんとす

蟬の穴地下から掘つて来りけり

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

となりの木となりの木へと花吹雪

鱗粉の幽かな汚れ捕虫網

口中に^手金の泥つばくらめ

花ふぶき赤子は永久に泣き止まず

朗報の蟻か一目散に駆く

つばくらや雨ふる国の深庇

女房も一つ年取る桜かな

蟻の道お天道様が見てをられ

つかみ難しよ落るナイフも燕も

玉砂利の上に花見の忘れ物

蟻でなきものを大事に蟻の列

春雷にグラスを磨く女かな

滑り台の板を流るる花の雨

夕立の天に捧げる観覧車

がさごそと浅蜷のたうつガスの鍋

下水へと真つ逆さまや花の雨

行く声と来る声秋の電話線

熱飯に卵を落す朝桜

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

夕方は昼間の終り秋の暮

洗桶と洗濯籠と朝桜

花疲れ回送電車通りけり

覗き見る点検孔の夜長かな

幼子は御国の宝桜咲く

蓋あけて天井匂ふ花の夜

寒林の真ん中にゐる寒さかな

村々の小学校の桜かな

響かせて夏も近づくマンホール

きゆつと鳴く踏んで幼き霜柱

山奥に海を知らざる山桜

モノクロもカラーも全て黴の声

初夢に初恋の人こんにちは

山に山桜水力発電所

眩しさの裸電球夏祭

しあつたわさつたよ

2021.5.23【角川俳句賞2021 御国の宝 全615句】 選50句

行3段組14ポ 2021年5月23日 19:31へ1桐9

啓蟄の首都に乗換案内図
 吹かば吹け春一番の空の旅
 特急と疎遠な村の日永宿
 春昼の時報きこゆる港町
 あまたある星のひとつが轉るよ
 蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に
 口中に千金の泥つばくらめ
 つばくらや雨ふる国の深底
 つかみ難しよ落るナイフも燕も
 春雷にグラスを磨く女かな
 がさこそと浅蜷のたうつガスの鍋
 熱飯に卵を落す朝桜
 洗桶と洗濯籠と朝桜
 幼子は御国の宝桜咲く
 村々の小学校の桜かな
 山奥に海を知らざる山桜
 山に山桜水力発電所

すたこらと花見弁当届けに来
 花衣母の衣桁も打ち広げ
 ボンネット開けて桜を見せてやる
 超然と歳月に立つ桜かな
 ひとひらが落花の封を切らんとす
 となりの木となりの木へと花吹雪
 花ふぶき赤子は永久に泣き止まず
 女房も一つ年取る桜かな
 玉砂利の上に花見の忘れ物
 滑り台の板を流るる花の雨
 下水へと真つ逆さまや花の雨
 咲き満ちて月にまみゆる桜かな
 花疲れ回送電車通りけり
 蓋あけて天井匂ふ花の夜
 響かせて夏も近づくマンホール
 モノクロもカラーも全て黴の声
 眩しさの裸電球夏祭

金魚にするか花火にするか子の浴衣
 浴衣着て母校に集ふ花火の夜
 宿浴衣見よとばかりに干し連ね
 古浴衣古き命を包むなり
 蟬の穴地下から掘つて来りけり
 鱗粉の幽かな汚れ捕虫網
 朗報の蟻か一目散に駆く
 蟻の道お天道様が見てをられ
 蟻でなきものを大事に蟻の列
 夕立の天に捧げる観覧車
 行く声と来る声秋の電話線
 夕方^{夕方}は^{夕方}昼間の^{夕方}終り秋の暮
 覗き見る点検孔の夜長かな
 寒林の真ん中にゐる寒さかな
 きゆつと鳴く踏んで幼き霜柱
 初夢に初恋の人こんにちは

2021.5.27【角川俳句賞2021 御国の宝 全623句】 選50句

行3段組14ポ 2021年5月27日 20:50 へ1 桐9

啓蟄の首都に乗換案内図

すたこらと花見弁当届けに来

金魚にするか花火にするか子の浴衣

吹かば吹け春一番の空の旅

花衣母の衣桁も持ち出して

浴衣着て母校に集ふ花火の夜

特急と疎遠な村の日永宿

ボンネット開けて桜を見せてやる

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

春昼の時報きこゆる港町

超然と歳月に立つ桜かな

古浴衣古き命を包むなり

あまたある星のひとつが囀るよ

ひとひらが落花の封を切らんとす

蟬の穴地下から掘つて来りけり

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

となりの木となりの木へと花吹雪

鱗粉の幽かな汚れ捕虫網

口中に千金の泥つばくらめ

花ふぶき赤子は永久に泣き止まず

朗報の蟻か一目散に駆く

つばくらや雨ふる国の深底

女房も一つ年取る桜かな

蟻の道お天道様が見てをられ

つかみ難しよ落るナイフも燕も

玉砂利の上に花見の忘れ物

蟻でなきものを担ぎて蟻の列

春雷にグラスを磨く女かな

滑り台をきらきら花の雨ながる

夕立の天に捧げる観覧車

がさごそと浅蜩のたうつガスの鍋

下水へと真つ逆さまや花の雨

行く声と来る声秋の電話線

熱飯に卵を落す朝桜

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

夕方は昼間の終り秋の暮

洗桶と洗濯籠と朝桜

花疲れ回送電車通りけり

覗き見る点検孔の夜長かな

幼子は御国の宝桜咲く

蓋あけて天井匂ふ花の夜

寒林の真ん中にゐる寒さかな

村々の小学校の桜かな

響かせて夏も近づくマンホール

きゆつと鳴く踏んで幼き霜柱

山奥に海を知らざる山桜

モノクロもカラーも全で徹の声

初夢に初恋の人こんにちは

山に山桜水力発電所

眩しさの裸電球夏祭

2021.5.30 【角川俳句賞2021

御国の宝 全624句】

選50句

行3段組14ポ 2021年5月30日 18:17 へ1 桐9

← 全句数のカト

啓蟄の首都に乗換案内図

花衣母の衣桁も持ち出して

金魚にするか花火にするか子の浴衣

吹かば吹け春一番の空の旅

すたこらと花見弁当届けに来

浴衣着て母校に集ふ花火の夜

特急と疎遠な村の日永宿

ボンネット開けて桜を見せてやる

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

春昼の時報きこゆる港町

超然と歳月に立つ桜かな

古浴衣古き命を包むなり

あまたある星のひとつが囀るよ

ひとひらが落花の封を切らんとす

蟬の穴地下から掘つて来りけり

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

となりの木となりの木へと花吹雪

鱗粉の幽かな汚れ捕虫網

口中に千金の泥つばくらめ

花ふぶき赤子は永久に泣き止まず

朗報の蟻か一目散に駆く

つばくらや雨ふる国の深庇

女房も一つ年取る桜かな

蟻の道お天道様が見てをられ

つかみ難しよ落るナイフも燕も

玉砂利の上に花見の忘れ物

蟻でなきものを担ぎて蟻の列

春雷にグラスを磨く女かな

花の雨も滑るが良けれ滑り台

夕立の天に捧げる観覧車

がさごそと浅蜩のたうつガスの鍋

下水へと真つ逆さまや花の雨

行く声と来る声秋の電話線

幼子は御国の宝桜咲く

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

夕方は昼間の終り秋の暮

熱飯に卵を落す朝桜

花疲れ回送電車通りけり

覗き見る点検孔の夜長かな

洗桶と洗濯籠と朝桜

蓋あけて天井匂ふ花の雨

寒林の真ん中にゐる寒さかな

村々の小学校の桜かな

響かせて夏も近づくマンホール

きゆつと鳴く踏んで幼き霜柱

山奥に海を知らざる山桜

モノクロのカラーの黴の声聞かな

初夢に初恋の人こんにちは

山に山桜水力発電所

眩しさの裸電球夏祭

2021.5.31【角川俳句賞2021 御国の宝 全627句】 選50句

行3段組14ポ 2021年5月31日 10:37 へ1 桐9

啓蟄の首都に乗換案内図

花衣母の衣桁も持ち出して

金魚にするか花火にするか子の浴衣

吹かば吹け春一番の空の旅

すたこらと花見弁当届けに来

浴衣着て母校に集ふ花火の夜

特急と疎遠な村の日永宿

ボンネット開けて桜を見せてやる

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

春昼の時報きこゆる港町

超然と歳月に立つ桜かな

古浴衣古き命を包むなり

あまたある星のひとつが轉るよ

ひとひらが落花の封を切らんとす

蟬の穴地下から掘つて来りけり

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

となりの木となりの木へと花吹雪

鱗粉の幽かな汚れ捕虫網

口中に千金の泥つばくらめ

花ふぶき赤子は永久に泣き止まず

朗報の蟻か一目散に駆く

つばくらや雨ふる国の深庇

女房も一つ年取る桜かな

蟻の道お天道様が見てをられ

つかみ難しよ落るナイフも燕も

玉砂利の上に花見の忘れ物

蟻でなきものを担ぎて蟻の列

春雷にグラスを磨く女かな

蓋あけて天井匂ふ花の雨

夕立の天に捧げる観覧車

がさごそと浅蜷のたうつ鍋の中

花の雨も滑りに来たれ滑り台

行く声と来る声秋の電話線

幼子は御国の宝桜咲く

下水へと真つ逆さまや花の雨

夕方は昼間の終り秋の暮

熱飯に卵を落す朝桜

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

覗き見る点検孔の夜長かな

洗桶と洗濯籠と朝桜

花疲れ回送電車通りけり

寒林の真ん中にゐる寒さかな

村々の小学校の桜かな

ざあざあと夏も近づくマンホール

きゆつと鳴く踏んで幼き霜柱

山奥に海を知らざる山桜

モノクロのカラーの黴の声聞かな

初夢に初恋の人こんにちは

山に山桜水力発電所

眩しさの裸電球夏祭

鍋の中

正則に

正則に

地中より掘り出し

啓蟄の首都に乗換案内図

花衣母の衣桁も持ち出して

金魚にするか花火にするか子の浴衣

吹かば吹け春一番の空の旅

すたこらと花見弁当届けに来

浴衣着て母校に集ふ花火の夜

特急と疎遠な村の日永宿

ボンネット開けて桜を見せてやる

宿浴衣見よとばかりに干し連ね

春昼の時報きこゆる港町

超然と歳月に立つ桜かな

古浴衣古き命を包むなり

あまたある星のひとつが囀るよ

ひとひらが落花の封を切らんとす

蟬の穴地中より掘り来りけり

蝶が舞ふパンもケーキも無き寺に

直列に並列に花吹雪かな

鱗粉の幽かな汚れ捕虫網

口中に千金の泥つばくらめ

花ふぶき赤子は永久に泣き止まず

朗報の蟻か一目散に駆く

つばくらや雨ふる国の深庇

女房も一つ年取る桜かな

蟻の道お天道様が見てをられ

つかみ難しよ落るナイフも燕も

玉砂利の上に花見の忘れ物

蟻でなきものを担ぎて蟻の列

春雷にグラスを磨く女かな

蓋あけて天井匂ふ花の雨

夕立の天に捧げる観覧車

がさごそと浅蜷のたうつ煮立ちかな

花の雨も滑りに来たれ滑り台

行く声と来る声秋の電話線

幼子は御国の宝桜咲く

下水へと真つ逆さまや花の雨

夕方は昼間の終り秋の暮

熱飯に卵を落す朝桜

咲き満ちて月にまみゆる桜かな

覗き見る点検孔の夜長かな

洗桶と洗濯籠と朝桜

花疲れ回送電車通りけり

寒林の真ん中にある寒さかな

村々の小学校の桜かな

ざあざあと夏も近づくマンホール

きゆつと鳴く踏んで幼き霜柱

山奥に海を知らざる山桜

モノクロのカラーの黴の声聞かな

初夢に初恋の人こんにちは

山に山桜水力発電所

眩しさの裸電球夏祭

みよこの
そのよしの
たむたむ
6.2
3と2の3も一興